

「昭和中期の文化財調査記録」展

戦後富山県では、文化財調査委員を配置し保護・指定を目的とした数々の調査を行ないました。

長島勝正

委員として活動された一人に長島勝正氏がいます。長島氏は、県内外の仏像や古美術の調査を行ない、重要な文化財は県・国の指定へと導きました。特に富山県〔立山博物館〕蔵重要文化財「銅造帝釈天立像」の海外流出を食い止め、県知事に買い戻させたことは有名です。

カメラ等が稀少な当時、文化財の記録はノートやスケッチブックに記入することが主流でした。

長島氏は東京美術学校（現東京芸術大学）出身で、的確な描写でスケッチし、説明は文字で記入しました。

現在では失われたり、見ることの困難な資料を当時多く見学し、記録に残しています。



立山中学校校長・立山町史編纂に携わった石原与作氏も、富山県教育委員会主催立山信仰遺跡調査に長島氏とともに参加し、スケッチブックに記録を残しました。石原氏の記録も長島氏同様、細かい観察がなされています。石原氏は同じ文化財を数度訪れ、最初の記録に補足・修正したこともわかります。



本展では、昭和中期の文化財調査に携わった二人の専門家のスケッチブックを展示し、当時の記録のありようを紹介します。

またあわせて、重要文化財「銅造帝釈天立像」の刻銘解読にも関わったこの二人の書簡類等も公開し、当時の解読の研究のようすも紹介します。

●展示期間●

令和7年5月10日(土)～6月1日(日)

●解説説明会●

5月10日(土) 10:30～12:00

講師 帝塚山大学教授 杉崎貴英氏

当館学芸員

●解説会●

5月18日(日)10:30・14:00

主催

立山町歴史交流ステーション日なた



〒930-3267 立山町日中上野 83

☎076-462-2387

✉tateyama-hinata@ma.net3-tv.net



立山町日なた